

止の観点から本道では、公道でのリレーが中止。代表ランナーによる無観客の点火セレモニーだけとなり、落胆する町民も。

8月の東京2020パラリンピック聖火リレー採火式では、道内各地で採火行事が行われ、白老ではアイヌ民族の伝統儀式「カムイノミ」の火を聖火皿にともし、大会の成功などを祈りました。式はやはり新型コロナウイルス感染拡大防止から無観客で行われました。



7月

アイヌ文化の復興と発展の拠点・ウポイ（民族共生象徴空間）が開業1周年を迎え、記念セレモニーや記念イベントが催され町全体で祝いました。入場者数は約25万5千人。コロナ禍で機能のフル発揮がままならない中でしたが、記念セレモニーに出席した加藤勝

ウポイが晴れの開業1周年

信官房長官（当時）が、アイヌ文化の伝承・創造・発展の拠点としてだけではなく「歴史や文化に対する国民の理解促進にウポイの果たす役割は大きい」と延べ、関係者のウポイへの期待を代弁しました。1周年に合わせた記念イベント「ポロトミントラフェスティバル2021」も開催され、好天にも恵まれ、大勢の来場者がアイヌ文化に触れました。



8月

町民待望の町立病院改築事業がいよいよスタート。発注方式は工期短縮と事業費増加リスクの低減を狙った設計施工一括発注（デザインビルド）を採用。令和6年5月の開院予定を目指し、業者選定から基本・実施設計の策定、建設工事と進められます。ウイマム文化芸術プロジェクト2021歩いて巡る野外写真展

「虎杖浜・アヨロ」が10月までのロングランで同地区海岸通り（海産物ロード）で開催。元陣屋資料館所蔵の故山崎壽昭氏の写真を巨大サイズに引き伸ばし、同ロードの使われていない建物などに貼りました。虎杖浜の日常生活のごくありふれた一場面が、町内外の人を呼ぶ大好評を得ました（実は写真は現在も貼ってあります）。

待望の町立病院改築事業がスタート



2年に一度の町民意識調査結果がまとまり、前回に引き続き「町への愛着度」「定住意向」が減少したことが分かりました。虎杖浜第5町内会が、虎杖浜第4町内会を吸収合併。全町で100町内会となりました。

海産物ロードでアート

本道への3回目の新型コロナウイルス緊急事態宣言も、当初の8月27日〜9月12日が30日までの延長後、ようやくの解除。町の公共施設の休館も終わり、雪解けのような解放感を感じつつ第6波の感染拡大に備えた日常の防止策の継続が決めます。

9月

10月

地域公共交通「元気号」「カムイ号」「ぐるぼん」の路線・ダイヤが改正されました。併せて乗り放題で利用できる定期券の販売も初めて開始。町は日本郵便株式会社と連携し、納税証明書や住民票の写しの交付請求などの行政事務の一部を町内4郵便局で取り扱うサービスを開始しました。31日には第49回衆議院総選挙が実施されました。

新型コロナ緊急事態宣言（3回目）が解除

62年に白老町で操業を開始した北海道工場を来年3月末で閉鎖することになりました。文化庁などの「日本博」採択を受け、文化・芸術の振興と観光を融合したまちづくりを目指す、各界によるまちぐるみ組織・白老文化観光推進実行委の初開催事業「白老文化芸術共創 ROOTS&ARTS SHIRAOI」が開かれ、アーティストが白老の自然や文化をモチーフに、町内6会場で作品展を期間開催。まちづくりの新たな手法の第一歩となりました。

11月

大正10（1921）年に開校した町立萩野小学校が100周年を迎え、コロナ禍の制限の中ながら記念式典を催し、歴史を振り返りました。

9月末の緊急事態宣言の解除を境に、長く潜っていた水中から水面に顔を出したような感があります。「取り戻しつつある日常生活」ですが、まだまだコロナ対策の地道な継続が必要なことは経験から学んでいます。白老のこの一年を振り返りながら、迎える新年は町民の皆さんにとって良い年になるようお祈りいたします。（竹）

製紙用薬品メーカーのハリマ化成株式会社は、19

